

ライフサポートひなた

症 例 概 要 利用者氏名：80代 介護度：3

利用期間：R5年7月～現在

診断名：慢性腎臓病、高血圧、ネフローゼ、廃用症候群

2023年3月発熱、体動困難にて総合病院に入院。入院中に右膝、右足関節の偽痛風の診断される。治療安静に伴う、廃用進行し、リハビリ目的にて当施設に入所となる。今後は娘夫婦の近くで独居予定。

内 容

在宅復帰を目標にひなたに入所。同年8月に利用者Aさんがひなたに入所される。部屋は違うが、施設のイベントやレクと一緒に参加され、仲が良くなり意気投合、毎日一緒に過ごされていた。2人の仲の良さはスタッフの中でも明るい話題であった。仲の良かった利用者Aさんの自宅退所が決まる。ご本人へ「住所教えるから家に遊びに来てね」と話されていた。名残惜しそうにAさんはご自宅へ退所された。

その後ご本人は食事が済むと直ぐにフロアから部屋に戻り、居室に籠ることが多くなってしまい、以前のように利用者さんとお話する機会が減っていた。多職種でも活動量の低下など話題に上がり、ご本人の悩み、希望を聞いてみた所、自宅に帰られた利用者Aさんと一緒に過ごした日々を思い出し、どうにかもう一度あってお話をしたいと希望がきかれた。Aさんはひなたの訪問リハビリを利用されており、Aさんのご家族やケアマネジャーに事情を話すと「いい提案ですね。是非お願いします。」と前向きなお返事をいただいた。ご本人にAさんに会いにいく事を伝えると満面の笑顔を見せてくれた。

ご本人がAさんの家に訪問するに当たって、問題が2つあった。一つ目が玄関先の段差昇降、二つ目が自宅内の移動である。現在ご本人の施設内ADLは車椅子であった。そのためリハビリ職員と相談し、安全に自宅へ訪問できる方法を考えた。まずは自宅内の移動を想定し、リハビリで歩行器を使用した歩行練習、玄関先の段差を想定した段差昇降練習を行った。Aさんに会い行くことを目標に、ご本人の一生懸命な姿がみられた。

Aさんのご自宅に行く当日、介護職員とリハビリ職員が同行。実際に、自宅先の階段昇降、自宅内の移動を安全に行うことが出来た。お二人が再会すると満面の笑顔が見えた。少しの時間であったが、笑顔が途切れない時間であった。施設へ帰宅してからもご本人の表情が明るく「また会いましょう」と約束した為、「私も頑張らないとね」と前向きな言葉も聞かれるようになった。ご自身の在宅復帰に向け自ら自主トレをする場面も見られるようになった。「今度は自分の家に呼んであげたい」など活気のある発言もみられ、在宅復帰に向け、日々のリハビリ、施設生活を楽しまれている。